

要望演題 | 1-11 心不全・心移植

## 要望演題9

### 重症心不全治療

座長:

上野 高義 (大阪大学大学院)

横澤 正人 (北海道立子ども総合医療・療育センター)

Fri. Jul 17, 2015 9:00 AM - 9:50 AM 第4会場 (1F ジュピター)

II-YB9-01~II-YB9-05

所属正式名称: 上野高義(大阪大学大学院医学系研究科 先進心血管治療学)、横澤正人(北海道立子ども総合医療・療育センター循環器病センター)

## [II-YB09-01]乳児期重症心不全に対する Berlin heart EXCOR®の4症例の経験

○金谷 知潤<sup>1</sup>, 上野 高義<sup>1</sup>, 平 将生<sup>1</sup>, 小澤 秀登<sup>1</sup>, 木戸 高志<sup>1</sup>, 松長 由里子<sup>1</sup>, 荒木 幹太<sup>1</sup>, 小垣 滋豊<sup>2</sup>, 戸田 宏一<sup>1</sup>, 倉谷 徹<sup>1</sup>, 澤 芳樹<sup>1</sup> (1.大阪大学大学院医学系研究科 心臓血管外科, 2.大阪大学大学院医学系研究科 小児科学)

Keywords: 乳児期, 心不全, Berlin heart

【背景】乳児期重症心不全症例への EXCORの導入は短期間のサポートでは良好な成績が報告されている。しかし、日本では長期サポートが予想され、合併症や周術期管理に工夫を要すると考えられる。当院で EXCORを4例経験したので経過を踏まえ、術後の管理の工夫を報告する。【症例】症例1:DCMの4ヶ月の男児。EXCOR装着時体重 (EBW) は4.6kg。心不全の急性増悪で緊急 central ECMOを装着。6日後に EXCORを装着した。術前より肝腎機能障害あり、EXCORの脈拍を95回/分と高心拍出状態で管理し、POD4に腹膜透析離脱可能であった。周術期以降の抗凝固療法は抗血小板剤2剤とワーファリン内服 (WF) を併用し、PT-INR 2.5~3.0で管理した。POD43に硬膜下血腫を認めたが、神経学的後遺症は認めず。ポンプ交換 (PEX) はPOD44、128に行った。ドライライン感染 (DI) は認めなかった。当院退院前は体重が8.5kgまで成長した。POD422に渡航移植となった。症例2:DCMの6ヶ月の女児。EBWは5.9kg。心不全悪化のため当院に転院し待機的に EXCOR装着となった。術前後で肝腎機能悪化なし。WFで、PT-INR2.5であったが、POD57に脳梗塞に伴う出血を認め、WFリバースを行う必要があった。PEXはPOD21、160施行。DIはなく神経学的後遺症もなし。POD275で渡航移植となった。症例3:NCLVの1歳2ヶ月の男児。EBWは8.0kg。心不全悪化のため当院に転院となり、待機的に EXCOR装着となった。WFでPT-INR2.5であったが、脳血管障害、PEXはなかった。その他臓器障害なく、POD45に国内での移植となった。症例4:DCMの6ヶ月の女児。EBWは4.2kg。乳児期に診断され、緊急 ECMO装着となり3日後に EXCOR装着となった。POD13現在、栄養状態不良により人工呼吸管理から離脱困難な状態である。【まとめ】10mlポンプを用いた EXCORの4症例を経験した。長期サポートでは脳血管合併症のリスクを認め、他のデバイス同様、注意深い経過観察を要すが比較的安定したサポートが可能であった。